

# 殿山第二小だより

令和 4年 6月 22日 第 11号

枚方市立殿山第二小学校

TEL:050-7102-9044

発行責任者 校長 山本 容子

学校では、民間施設（牧野スポーツクラブ）での水泳学習も各学年2巡目に入ってきています。また、校内での体育学習は、マット運動や陸上運動に取り組んでいるところです。

熱中症対策、感染症対策には、十分に気を付けながら、子どもたちの体力向上につながるよう指導を進めていきたいと考えています。ご家庭でも、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」とお子さまの健康管理にご配慮くださいますようお願いいたします。

さて、今回の学校だよりでは、子どもたちの心身の健康について考えてみたいと思います。

それは、児童虐待報道等が後を絶たない現実があると感じているからです。子どもたちが心身ともに健やかに育つための環境づくりは、大人が担わなければならない大切な役目であると強く思うからです。

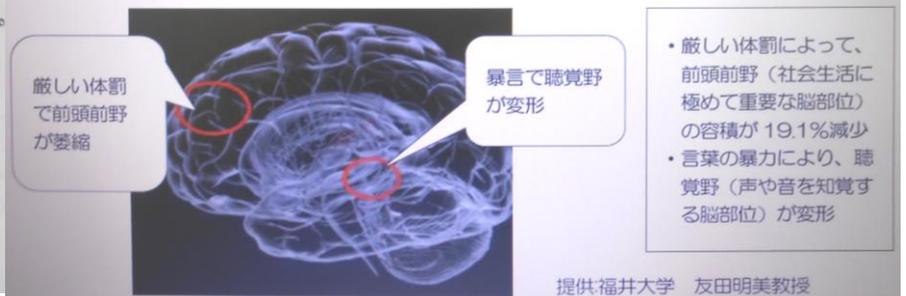
平成29年5月15日付で、厚生労働省は、体罰によらない育児を推進する目的で、都道府県の児童福祉・母子保健行政に対して「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～」を通知しました。その理由を、『子どものしつけには体罰が必要』という誤った認識や風潮を社会から一掃するため」と記載し、体罰によらない育児を推進するパンフレットが作成されました。そのパンフレットの表紙には、左下図の文面が記載されています。

また、パンフレットには、脳画像の研究からわかってきたことも報告されています。それによりますと、「体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。」という表題のあとに、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に大きなダメージを受けているかもしれないと・・・(下図)。親・養育者や大人が「愛の鞭」「しつけのため」のつもりだったとしても、「体罰や暴言は、百害あって一利なし。子どもに望ましい影響などもたらしません。」と断言しています。

これは、子ども時代につらい体験をした人の脳画像です。

**子どもを健やかに育むために**  
**～愛の鞭ゼロ作戦～**

子育てをしていると、子どもが言うことを聞いてくれなくて、イライラすることもあります。つい、叩いたり怒鳴ったりしたくなることもありますよね。一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、恐怖により子どもをコントロールしているだけで、なぜ叱られたのか子どもが理解できていないこともあります。最初は「愛の鞭」のつもりでも、いつの間にか「虐待」へとエスカレートしてしまうこともあります。体罰や暴言による「愛の鞭」は捨ててしましましょう。そして、子どもの気持ちに寄り添いながら、みんなで前向きに育んでいきましょう。



目に見えない頭の中の話ですが、子どもの特権は本来、屈託のない笑顔で、様々に興味関心を持って取り組むことが出来ることだと思います。学校でできることを考えた時、まず、一人ひとりの気持ちに寄り添い、自らが学んでいこうとする子どもの姿を大事にしていくことを殿二小教職員が共通認識することと思います。そのためにも、学校が和やかな温かい言葉が行き交う場でなければなりません。繰り返し繰り返し、諭していくことも必要でしょう。これには、忍耐を要します。継続していくためには私たち大人自身の心身の健康があってこそ、子どもたちと良好な人間関係を築いていくことができるのかもしれないですね。

保護者の皆様、地域の皆様、一緒に考え続けていきましょう。